

#031 九州デジタルガバメント構想（その2）

アジャイルに・・・

谷口博文の政策イノベーション



参考：<https://japan.cnet.com/article/35142212/?ref=newspicks>

Agile というのは敏捷に、すばやく、という意味で、もともと短期間に設計テストを繰り返しながら進めるソフト開発技法のこと。その反対はウォーターフォールで、全体設計を見ながらきっちりと段階を踏んで進めるやり方です。

従来のように時間をかけて体系的に組み立てるのではなく、できるところからどんどんやってみる、問題点はすぐに修正する、何度もトライしながら部分的でも実際に役に立つプロダクトを生み出す、そんなプロジェクトの進め方が今日重視されています。

九州デジタルガバメントはまさにそのような考え方です。つまり、九州政府の行政組織とか中央政府との関係などを整理しなければ先に進まないのではなく、まず自分たちでできるところからやってみよう、ということ。

今福岡市では LINE を使った災害時の復旧支援が動いてますし、スーパーシティ構想もあります。例えば地域住民にとって便利で役に立つデータ活用プロジェクトを現場で実装してみる、そうすれば今の国の制度やルールの問題点が見えてくる。それをアジャイルに修正しながら新しい時代に応じた社会に変えていく。そのためには住民から遠い中央政府ではなく、住民に近い地方政府が主役となるべきだ、というのが九州デジタルガバメントの基本的コンセプトです。

国がルールを決めなければ何も動かないのではなく、現場＝地域が動きながら自分でルールを考える、そういう時代になってきていると思います。